

地域の人々に感謝し ボート競技で世界を目指す

第40回東北中学校スケート・
アイスホッケー大会 スピードスケート競技
男子1500㍎ 2位 男子3000㍎ 2位

津志田 匠太郎 さん

つしだ・しょうたろう 15歳

西根第一中3年



平成15年生まれ。寺田小5年時、いわてスーパークッズ第8期生に合格。中学から相撲とスピードスケートを始める。30年12月の東北中学校大会で2位に入賞し、全国大会へ出場。相撲では、7月の県中学校総体で団体優勝に貢献し、第48回全国中学校大会の個人戦、団体戦へ出場した。身長187㍎、体重76㍎。

「1500㍎で自己ベストを出せてうれしかったけど、あと少しで優勝できた」と悔しさをにじませるのは、平成30年12月22日から24日まで行われた東北中学校大会のスピードスケート競技男子1500㍎と3000㍎で2位に入賞した津志田匠太郎さん。1位との差はそれぞれ0・74秒と1・95秒でした。スピードスケートを始めたきっかけは、いわてスーパークッズの競技体験でした。自分の力で氷を進む感覚が面白く、そのスピード感に夢中になりました。中学1年生のとき、スピードスケート団体「盛岡SPEED」へ入団。相撲部で稽古をする傍ら、冬場は母親の送迎で盛岡市へ通い、スケート技術を磨きました。津志田さんは「コーチや仲間がいたので、スケートの練習や相撲の稽古はつらい

と思う以上に楽しく取り組みました」と、多忙な日々を振り返ります。

日本ボート協会主催のトリアウト（選考会）に、いわてスーパークッズとして参加し、合格した津志田さんは、4月からボート競技に転向することを決意。全国でも強豪の福井県立美方高校へ進学します。「今まで多くの人に支えられてきたことに感謝したい。スケートや相撲で得たものを生かし、世界で活躍できる選手を目指したい」と決意を新たにしていました。



1500㍎で自己最速の滑りを見せた津志田選手（12月23日、東北中学校大会）（写真提供：西根第一中）

編集後記

▽小林潤志郎、陵侑兄弟の活躍により、世界選手権ジャンプ団体競技で日本が5大会ぶりの銅メダルを獲得し、まるでわが子のこのように胸が熱くなりました。また、陵侑選手は2月26日現在、W杯シーズン11勝と表彰台16度目となる日本男子のシーズン最多記録を更新中。3月24日のW杯最終戦応援イベント（詳細は11㍎）で一緒に応援しましょう。▽昨年9月に開催されたノスタルジックカーニバル八幡平の東北地方太平洋沖地震災害義援金の額は2万8467円でした。八幡平クラシックカー同好会様から掲載依頼がありましたので、ご紹介します。▽八幡平・安比ゆきフェスティバルの取材でご紹介できなかった市内7店舗で提供された「雪だるまフード」。息子を連れて道の駅にしね和風レストランへ。ごはんが雪だるまの形をしたカレーに息子は大喜びでした。▽サークルの取材で「ヨガ友の会」にお邪魔しました。皆さんの活動の様子をあらかた撮り終え、隅っこで真似してみました。皆さんがしなやかに柔軟をこなす中、ガツンコッチンの体を必死でストレッチ。学生の頃は立位体前屈をすれば台より下にいらしていましたが、今では指先とつま先がどうにも出会いません。ウイキによると体前屈の値が低下すると腰痛が起りやすくなるとのこと。「やっぱり」。皆さんをみて、加齢で体が硬くなるのではないと痛感させられましたので、柔軟を日課にしたいと思います。とりあえず、指先とつま先が出会うまでは。